



「危機対応力」は、平時の組織力でもある

今回は、10月7日(水)に開催予定の『想定外に強い組織をつくる「危機対応演習」体験セミナー』についてご紹介をさせていただきます。

突然、大規模な災害や重大なトラブルが発生したら、あなたの会社は本当に動けるでしょうか。

「BCPは策定している」
「緊急時のマニュアルも用意している」
「社員への防災教育も行っている」

それでも、実際の危機に直面したとき、計画通りに組織が動けるとは限りません。

なぜなら、危機的な状況では、必要な情報がすべて揃ってから意思決定できるわけではないからです。

次々と入ってくる情報。何が事実で、何が未確認なのか分からない。時間は限られている。複数の問題が同時に発生する。そして、判断を先送りすること自体が、新たなリスクにつながることもあります。

そのような状況で求められるのは、マニュアルを知っていることだけではありません。限られた情報から状況を把握し、優先順位を決め、意思決定し、チームとして行動する力です。

今回開催する「危機対応演習」体験セミナーでは、こうした「想定外」に対応する組織の力を、実践的なシミュレーションを通じて体験していただけます。

このセミナーの特徴は、講師の話を聞くだけの防災・BCPセミナーではないことです。

参加者の皆様には、模擬的に設置された「災害対策本部」のメンバーになっていただきます。

そこへ、さまざまな状況が次々と報告されます。限られた時間の中で情報を整理し、

「今、何が起きているのか」「何を優先するのか」「誰が判断するのか」「次に何をすべきなのか」

をチームで考え、対応していきます。

実際にやってみると、普段の会議では見えにくい組織の課題が浮かび上がってきます。情報を持っている人が発言しなかった。リーダーが一人で抱え込み、チームを十分に活用できなかった。

危機対応のシミュレーションを行うことで、「限られた情報から、どう判断するか」「誰がリーダーシップを発揮するのか」「チームで情報をどう共有するのか」といった課題が浮き彫りになります。(裏面へつづく)

Next Seminar



Oct, 2, 2026

経営者・人事担当者必見! ~カスハラ対策の第一人者・津田卓也氏が徹底解説! 最新事例から学ぶ「カスハラ対策の最前線」

本セミナーでは、カスハラ対策の第一人者として多くの企業支援を行ってきた津田卓也氏を講師にお迎えし、こうした国の法改正と社会の動向を踏まえながら、企業が今取り組むべき実践的な対策について学びます。

詳細はこちらです。

<https://entrelabo.co.jp/public>

10 WED



Oct, 7, 2026

想定外に強い組織をつくる「危機対応演習」体験セミナー ~危機対応力・リーダーシップ・チームワークを実践で鍛える~

本体験セミナーでは、参加者が模擬の「災害対策本部」のメンバーとなり、次々と報告される状況を整理しながら、チームで対応策を考える「危機対応演習」を体験いただけます。

詳細はこちらです。

<https://entrelabo.co.jp/public>



Oct, 13, 2026

~自ら考え、判断・行動する「自律型人財」が育つ組織へ理念を行動に変える~「かたづけ思考」体験セミナー

セミナーでは、小松氏がこれまで実際に支援してきたお客様の事例をもとに、日々の片づけ・環境整備を通じて「気づく・考える・行動する」力がどのように育ち、理念浸透や社員の行動変容につながっていくのかを分かりやすくご紹介いたします。

詳細はこちらです。

<https://entrelabo.co.jp/public>

この研修の興味深いところは、災害対応を学びながら、普段の組織運営に必要な力まで見えてくることです。

例えば、限られた情報から判断する力は、経営やマネジメントにも欠かせません。

チーム内で情報を共有する力は、日常の報告・連絡・相談にもつながります。

意見が異なる中で意思決定する力は、プロジェクトや新規事業を進める際にも必要です。

そして、状況に応じて誰かがリーダーシップを発揮し、周囲を巻き込みながら行動する力は、変化の激しい現在のビジネス環境において、ますます重要になっています。

つまり危機対応演習は、BCP 担当者だけのための研修ではありません。

マネジメント、リーダーシップ、チームビルディング、意思決定、コミュニケーションといった「組織の基礎体力」を鍛える研修として活用することができます。

さらに重要なのが、演習後の振り返りです。

「何ができたのか」だけでなく、「何ができなかったのか」「なぜできなかったのか」「次に同じ状況が起きたら、どう行動するのか」をチームで振り返ります。

失敗を評価するのではなく、失敗から組織の課題を発見する。

そして、体験→振り返り→概念化というプロセスを通して、演習の中で得た気づきを、実際の職場での行動変容へとつなげていきます。

危機が起きてから初めて課題に気づくのでは遅すぎます。だからこそ、何も起きていない平時に「失敗できる環境」をつくり、組織として訓練しておくことに大きな意味があります。

講師を務めるのは、Align Lab 代表 砂原健利氏です。

砂原氏は 2000 年に富士通株式会社へ入社。調達部門を経て、株式会社富士通総研のコンサルティング部門において、企業・自治体の災害対応計画や BCP / BCM に関するプロジェクトに従事しました。

さらに、危機対応力の強化・検証を目的とした訓練の設計や評価など、実践的な危機管理支援にも携わってきました。

2019 年からは製造業において、BCP・BCM、防災、リスクマネジメント等を担当。現在もこれまでの経験を生かし、危機対応における訓練・演習の企画や評価に携わるとともに、より効果的な演習手法とその活用について研究・実践を続けています。

危機管理の「知識」を伝えるだけではなく、実際に組織を動かしてみることで、何ができて、何ができないのかを検証する。その実践性が今回のセミナーの大きな特徴です。

想定外の事態が起きたとき、最後に組織を支えるのは、マニュアルだけではありません。

自ら状況を考え、判断する人。
必要な情報を共有できるチーム。
決断し、周囲を動かすリーダー。
そして、異なる意見をまとめ、組織として行動する力です。

BCP や危機管理の実効性を高めたい企業はもちろん、管理職・次世代リーダーの育成や、実践型のチームビルディング研修をお探しの企業にも、ぜひ一度体験していただきたいプログラムです。

詳細ページ
<https://entrelabo.co.jp/public>
お申込み
<https://entrelabo.co.jp/public#registration>



【コラム執筆】

人と人、人とコトの仲をつなぐ
仲津定宏

砂原さんとは、ホームページ経由のメルマガ登録がきっかけで、その後直接ご連絡を頂き、オンライン→対面との打ち合わせを通じてご縁を頂くことができました。

これまでとはちがう形で講師とのご縁も広がってきていることを実感しています。

研修実施報告

習慣化研修実施報告

先日、とある企業にて「未来を豊かにする習慣化研修」を実施いたしました。講師には、組織課題の解決やコミュニケーション研修を数多く手掛ける岡佐紀子氏をお迎えし、行動科学や脳の仕組みをもとに、「続かない理由」を理解し、継続できる行動を設計するための考え方について学びました。

研修では、「人の行動の約 4 割は習慣によるものであり、続かない原因は意志の弱さではなく脳や環境の仕組みにある」という考え方をもちに、習慣化のメカニズムを理解しました。また、目標を行動レベルまで具体化する方法や、トリガー・行動・報酬を組み合わせた「習慣の設計」、小さな成功体験を積み重ねる重要性について、ワークを交えながら実践的に学びました。

